都道府県別賞一等

人生百年時代に向けて

鹿児島県　いちき串木野市立串木野中学校　二学年
宮之原　悠人

「人生百年時代」という言葉を初めて聞いたとき、私は〝百歳まで生きる人が増える時代〟というくらいにしか考えていなかった。しかし、生命保険について学ぶ中で、長生きすることは決して〝長く生きればいい〟という単純なことではないと気付いた。大切なのは、安心して自分らしく生き続けられることなのだと思うようになった。

私には祖父母がいる。以前は当たり前のように元気な姿しか見ていなかったが、年齢を重ねるにつれて、以前より疲れやすくなったり、病院へ通う回数が増えたりしていることに気付いた。私はその様子を見て、年を取るということは、体だけでなく生活そのものも少しずつ変わっていくことなのだと感じた。

もし病気になったら、治療にはお金がかかる。介護が必要になれば、家族の負担も大きくなる。私一人では何もできないが、家族みんなで支え合い、さらに社会の制度や生命保険のような仕組みがあることで、安心して生活できるのだと学んだ。

生命保険というと、私はこれまで〝亡くなったときに入るもの〟というイメージをもっていた。しかし実際には、病気やケガへの備え、介護への備え、家族を守る役割など、人生のさまざまな場面を支えていることを知った。人生には予想できない出来事がある。だからこそ、元気なうちから将来に備えることが大切なのだと思う。

人生百年時代では、健康で過ごせる時間を長くすることも欠かせない。どれだけ医療が進歩しても、自分自身が健康を意識しなければ意味がない。毎日の食事や睡眠、運動を大切にすることは将来の自分への贈り物になるのではないだろうか。私は野球をしているが、練習だけでなく、食事や休養も大切だと教えられている。今までは試合で活躍するためだと思っていたが、それは将来も健康に生きるための習慣につながっているのかもしれないと感じた。

また、人生が長くなるということは、夢や挑戦ができる時間も長くなることでもある。働き方が変わり、新しいことを学び直したり、趣味を楽しんだりする人も増えている。私も大人になってから新しいことに挑戦し、自分らしい人生を送りたい。そのためには健康だけでなく、もしものときの備えも必要になる。

生命保険は、お金を受け取るためだけのものではない。それは『大丈夫、一人ではない』という安心を家族に届けるものだと思う。万が一のときに残さ

れた家族が困らないようにすることは、自分のためではなく、大切な人を思いやる気持ちの表れでもある。その思いやりが形になったものが生命保険なのではないかと私は考えた。

人生百年時代は、これからの私たちが生きていく時代である。だからこそ、長い人生もただ過ごすのではなく、健康を大切にし、人とのつながりを大事にし、将来への備えについて考えることが必要だと思う。安心があるからこそ、新しいことに挑戦できる。支えてくれる人がいるからこそ、前を向いて歩くことができる。また、一人一人が支えられる側になるのではなく、支える側になることも大切だと思う。

私はまだ中学生で生命保険に入る年齢ではない。しかし、今回学んだことは将来の自分にきっと役立つと思う。人生百年時代を迎える私たちには、長く生きる準備だけではなく〝安心して生きる準備〟が必要なのだ。その安心は、自分一人ではなく家族や社会と支え合うことで生まれる。私はこれからも健康を大切にし、周りの人への感謝と思いやりを忘れず、安心して笑顔で暮らせる未来を築いていきたい。